

第4回二宮町総合計画審議会及び二宮町総合戦略検討委員会 会議要旨

日 時 2015年11月30日(月)午後3時30分～午後6時30分

場 所 二宮町町民センター 2Aクラブ室

出席者 委員 16名

後藤伸会長、廣上正一副会長、前田憲一郎委員、柳川駅司委員、蓮實茂夫委員、柏木稔委員、田邊邦良委員、岡本康則委員、笹建夫委員、秋山和紀委員、高須英郎委員、豊田博美委員、駒澤慎一郎委員、稲葉しずか委員、井上岳一委員、菅澤富枝委員

町職員 政策部長

事務局 企画政策課 3名

傍聴者 6名

配布資料

- 資料1 『二宮町人口ビジョン素案(案)』
- 資料2 『二宮町総合戦略素案(案)』
- 資料3 『第5次二宮町総合計画中期基本計画素案(案)』
- 資料4 『二宮町総合戦略・総合計画 委員・WSからの意見と対応』
- 資料5 『二宮町総合戦略及び第5次二宮町総合計画中期基本計画策定スケジュール改訂版』
- 参考資料1 『町民ワークショップ第3回記録』
- 参考資料2 『職員ワークショップ実施報告』

会議概要

1. 開 会

2. あいさつ

3. 議事

(1) 二宮町人口ビジョン素案(案)について

特になし。

(2) 二宮町総合戦略素案(案)について

○二宮町総合戦略素案(案)の内容について

委員 : 全体的な感想として、戦略として町がどこを重点としているのか分かりにくい。1ページの基本的な考え方の「2. 二宮町総合戦略で目指す町の姿」に、人口推計を踏まえてどのようにして将来の人口減少に歯止めをかけるかといった町の姿勢を打ち出した方が良いのではないか。

二宮町の強みは町民力なので個別の施策の中で、町民力を生かす部分を強く出した方が良い。今の戦略は行政主導のように見える。

事務局：ご指摘を踏まえて1ページの2. で町の方向性を強化します。

委員：人口推計があるが、将来二宮町がどうなるかイメージがつかない。一番変わるのは生産年齢人口が減ることだと思う。その時に町の産業がどうなるのか、また、住宅地でも空き家がどのくらい増えるかなど、人口が減少した時の状況はもう少しドラスティックに捉えた方が良い。将来の状況をふまえて戦略の内容ももう少しシビアに書いたほうが良いと思う。

事務局：ご指摘を踏まえて修正を考える。

委員：基本目標4の産業・雇用については基本目標の最初に持ってきたほうが良いのではないか。人口を増やすという意味では若い人の定住が重要だが、二宮町に産業が無いと町外に出て行ってしまう。町民が住みよい町と感ぜられるようにするためには、産業振興を図ることが重要ではないか。

事務局：国の総合戦略では基本目標の最初に産業・雇用が来て、人の流れ、子育て、地域づくりの順番となっています。しかし、二宮町では町の強みは町民力と捉えており、総合戦略では基本目標の1番目に地域づくり持ってきたことを特徴としており、地域づくりを大切にしていきたいと考えています。

委員：産業・雇用を最初に持ってくるための裏付けが弱い。無理して戦略に示しても絵に描いた餅になるおそれがある。

また、広域連携については国が推進するよう後押ししているが、今回の戦略には広域連携の発想が見られない。小さな町が単独でできることは限られている。各方面において既に実績があるので観光や農業など、広域連携の視点がほしい。

課題認識が全体的に町全体を俯瞰したもののように感じるが、地域にはもっと喫緊した課題があるはずだ。二宮町の発展を牽引してきた百合が丘などのニュータウンは、開発から半世紀たって高齢化や空き家、空洞化などの問題が起こっている。ニュータウンの再生に特化したプロジェクトを示す必要があるのではないか。他の委員からもニュータウンの再生に向けた具体的な意見が出されている。提案内容を戦略に盛り込む努力をしてほしい。

会長：まずは、商業・雇用の点から議論を進めたい。若い人たちは町に産業が無いために町外に出てしまうというが、かなり難しい問題だ。その点から見ると基本目標4にあるような就業機会の創出だけでよいか議論してほしい。

委員：産業は日本全体で厳しくなっていくと思われる。現実的に考えると二宮町で産業へ力を入れても仕方がないと思う。大企業はグローバル化して日本から出て行き、残されるのは小商いとされるようなローカルサービス業だろう。しかし、ローカルサービス業は給料の低さが問題だ。江戸時代は、江戸しか食べられないから江戸に人口が集中し、その周辺は仕事がなくなり人口が減ったという。仕事が無い中で雇用と叫んでも産業は生まれない。お金がなくても食べていけるシステムを作ることも必要だ。自然の恵みや地域の助け合いを活かすことも大切だ。限界集落の方が助け合いの環境ができていて出生率増えている場合もある。シビアに考えるならそこまで考える事も必

要だ。

委員 : 農業参入の支援などの項目があるが、二宮町の農業を見ると5年前より就農人口が6割減った。二宮の就農者は80歳を超えている人が多く、若者は特に少ない。農業は過酷な労働条件で低収入である。このままいけば衰退の一途だ。農家への支援策や法人化支援など、農業を維持発展させる施策が必要だ。就農者支援や農業を維持発展できる対策を盛り込んでほしい。

委員 : 農家であっても実際に食べていけるのは特徴のある人だ。ただ生産するだけでなく付加価値をつけるなどの工夫が必要ではないか。

再生可能エネルギーの事業化・産業化について、単独で戦略に盛り込むことには無理があると思う。それでも可能性を考えたいのであれば、広域連携など方向性の転換が必要だと感じる。

事務局 : 広域連携については、行政改革や総合計画で効率的な事務の推進という視点で位置づけをしています。しかし、総合戦略に関しては、限られた策定期間で関係自治体と合意を取るのは難しいこともあり、具体的に記載することが難しい状況です。

委員 : 総合戦略策定スケジュールが厳しいことは理解するが、それと今後5年間で広域連携の視点を持つかどうかを判断することは違うと思う。調整が難しいなら書き方を工夫して盛り込んでほしい。

委員 : 委員・WSからの意見と対応を見ると、「具体的な内容についてはプロジェクトを進める中で検討する」とあるが、具体的にどうするのか。プロジェクトを見ると具体的な書き込みがあるものとないものがあり、温度差があるように感じる。

事務局 : プロジェクトのうち、ある程度具体的に進みそうなものについてはそれなりに書き込んでいます。しかし、中には今後協議や検討が必要なものもあり、それらについては、大枠で示しています。具体的な内容については、今後、担当課との協議の中で決めていきたいと考えています。

委員 : プロジェクトの詳細がこの半年で決まるようなことではないことは理解しているが、具体的な検討にどう町民が絡んでいけるのか気になっている。今後の進め方についてある程度踏み込んでほしい。今後は、町民と一緒にまちづくりを考えていける体制が重要だと思う。その点について今後の進め方にでも示してほしい。

事務局 : 戦略で示したプロジェクトは総合計画と一体的に進めていくことになります。その中では町民参加も考えています。今後の進め方については、7ページの「5. まち・ひと・しごと創生の実現に向けて」の中で、素案から案になる段階で示していくようにします。

委員 : 中井町や小田原市の工業団地にも空きがある状態で二宮町に企業が進出するとは思えない。一方で、圏央道のインター周辺では産業集積が進み、発展していると聞く。交通網によって大きく変わるので二宮町も交通利便性のよさをアピールしてほしい。最近は起業を目指す若者が増えている。そうした若者が二宮町でも起業しやすい場をつくってほしい。

就農者については減少傾向にあり、平均年齢も66歳になった。町民には農業を知らない人も多い。二宮町は地形上の問題から大規模な農業経営は難しい。また、二宮町

は小売業も厳しい状況にある。仕入れに関してもスーパーにはかなわない。産業を取り巻く状況は厳しいが何とかしていかないと、町民が働く場を求めて町外に出ていってしまう。

委員 : 再生可能エネルギーを単独で出すことに無理があるという意見があったが、この項目は活かしてほしい。地球温暖化やCO2排出量の増加に対する危機感が高まっている。自然に恵まれている二宮町の特色を活かして自然エネルギーを活用する取り組みには意義があると思う。

委員 : 再生可能エネルギーの具体的なイメージが分からない。ごみの焼却施設等を活用して温泉を作るようなことなのか、それともソーラーパネルを設置して発電するようなものなのか。また、産業化をするには資金が必要だと思うが、どのくらい予算を考えているのか。

事務局 : 再生可能エネルギーの意図としては、エネルギーの循環やエネルギーの地産地消を実現するために、どのような事が二宮町でできるか検討することです。その中で民間の参入の可能性について検討し、需要があれば受け入れのための支援等を考えていくこととなります。町が主体となってエネルギー事業を起こすわけではありません。

委員 : 再生可能エネルギーの新たな可能性と書かれると、いろいろな受け取り方をされてしまう。エネルギー問題は大事だと思うが、表現は工夫してほしい。

事務局 : 表現について修正します。

委員 : 商工会アンケートによると 10 年後には 100 軒程度廃業するという結果が出ている。二宮町や大磯町は建ぺい率が低く、高い建物が建てられない。高い建物が建てられなければ人は増えない。また、二宮小の跡地は有効活用してほしい。先を見越した大胆な発想で物事を考えてほしい。観光は町にお金を落としてもらわないと何もならない。お金を落としてもらおう策を考えることが必要だ。

委員 : 国は駅前を中心にコンパクトシティ化を進めているが、それによって商店が衰退する現象が起こっている。駅前に住みたい人はナショナルブランドを好む傾向があるからだ。私は、マンションがない町だから二宮町に引っ越してきた。回りの人たちもそう思っている。二宮町がどこにでもあるような町になってほしくない。

委員 : 金融機関の立場からすると、26 ページにあるようなしごとづくりのための関係機関が集まって意見交換の場を持つことに賛成だ。二宮でも創業の可能性はあると思うので、起業しやすい環境づくりのために金融機関としても協力していきたい。

委員 : 二宮町にも小売業で成功している人もおり、ポテンシャルの高い町民がたくさんいる。二宮町で起業に成功している人を巻き込んで創業支援をすると良いのではないか。小規模でも儲かる店を増やすことが重要だと思う。

委員 : 基本目標 4 の順番については、他の委員の意見を取り入れてもらえばよい。基本目標 2 のタイトルについて、「二宮」という言葉が 2 回出てくるので、どちらか 1 つを削除してはどうか。

9 ページの公共施設の担当課について、教育委員会の課が入っていないのはなぜか。公共施設の 7 割は教育関連施設が占めていることから入れたほうが良いと思う。基本目標 3 の数値目標に合計特殊出生率があるが、それと対応する形で基本目標 2 に

純移動率を入れてはどうか。

事務局：基本目標の2については修正します。担当課については最終的には削除していきます。

純移動率については数値目標に入れる方向で検討します。

委員：新規就農者は多少増えているが、農業振興のネックは町の地形にある。農地中間機構が県にあり、農地の貸し借りができるようになったが、二宮町は傾斜地が多く借り手が見つからない。農業振興のためには、農地の構造改善が必要だ。農業はお金をかけないと残っていかない。

委員：ニュータウンの再生は是非位置づけてほしい。委員の意見では、具体的に団地の集約再編などハードからソフトまで立体的な提案がなされている。こうした提案をプロジェクトに取り入れてほしい。

事務局：地域の再生については、13ページの「みんなで地域コミュニティ再生・活性化プロジェクト」として掲げています。モデル地区にを選定し、協議会の設立等の支援を行うことを考えています。具体的に進めるにあたっては、住民や関係機関との話し合いを含めて進めていきたいと思えます。

委員：主旨は理解したが、プロジェクトのタイトルからはニュータウンが抱える問題の緊迫感が伝わらない。もう少しリアルな表現にしてほしい。

委員：公社としても今後は団地再生に取り組む考えがある。しかし、公社も独立採算制をとっているため、収入・支出を考えて取り組みを考えざるを得ない。百合が丘は魅力的な地域だと思う。地域と共生する団地をコンセプトに周辺の農地などと連携した地産地消などができるといいと思っている。二宮は斜面地が多く農業に適さないというが、イタリアなど斜面地の農地が魅力的な場所もある。二宮町もやりようによっては魅力が高められると思っている。また、地域に学校がなくなるとさびれてしまうので今後も一色小は大事にしたい。さらに、若い世代が住みたくなるように、リノベーションや空き家活用については、町からも支援があるとうれしい。団地再生に関しては、戦略の中で具体的に書き込まれなくてもその意図が読み取れるようになっていれば良い。

委員：人口を増やすためには子どもを増やすことが大事だ。しかし、子育て支援については何をするのか具体的に見えてこない。学校教育の中で知力・体力の向上というが、学校に入ってからでは遅い。保育園のうちから取り組むことが重要ではないか。

○今後の進め方について

事務局：総合戦略素案は本日の意見を踏まえて修正を行います。その後12月15日の政策会議に諮り、その素案をもって12月下旬からパブリックコメントに入ります。

また、総合戦略の内容に関しては、パブリックコメントと平行して委員からの意見を受け付ける形にしたいと思えます。パブリックコメントの意見と委員意見を取りまとめて、第5回審議会で再審議していただきたいと思えます。

委員：政策会議前に各委員に修正案が届くのか。

委員：パブリックコメントにかける案は事前に目を通したい。

事務局：修正案は政策会議後、パブリックコメントが始まる前までの間に委員に送付します。

(3) 第5次二宮町総合計画中期基本計画素案（案）について

委員：総合戦略のプロジェクトは総合計画とどのように関わってくるのか。

事務局：総合戦略に示された施策やプロジェクトについては、総合計画と整合をとりながら進めていく予定です。具体的には、総合戦略に示された施策は総合計画の中期基本計画の重点的方針として位置づけます。一方、プロジェクトについては、総合計画の実施計画の中で関連する事業と紐付けを行い、実現に向けた取り組みを行うこととなります。

委員：総合戦略のプロジェクトは総合計画の具体的な事業と対応していくということか。

事務局：総合戦略のプロジェクトに関する事業の中には、今の予算事業に位置づけが無いものもありますが、そうしたものも含めて、今後事業化を検討していきます。

委員：66 ページの自治にボランティアに関して触れられている。今後、ボランティアは重要になり、特に福祉など地域の中でボランティアが担う役割は大きくなり、互いに支えあう地域社会をつくるのが重要だ。そのためにも、総合計画で行政が積極的にボランティア育成を支援するという方向性を示すべきではないか。

事務局：今後のまちづくりを見据えると、福祉分野などでのボランティアとの連携強化は当然必要になると思います。ボランティアに関しては、自治の部分で全体的な観点からボランティアとの連携強化を図り、地域の活性化に活かしていくといった方針を示しています。

委員：ボランティア活動に参加してもらうような誘導策が必要ではないか。参加するきっかけをつくり、そこで互いが刺激しあい、活動を増やしていくといった取り組みを目指しても良いと思う。

事務局：行政側の課題として、ボランティアの窓口が一元化されていないという点が上げられますので、その点については、行政改革の中で改善を進め、行政のコーディネート機能強化を進めていきたいと考えています。

委員：子ども会や消防団などの従来のボランティア活動は年々機能しなくなっている。入会者も一部の人に限定されている。人口減少社会の中では、地域全体で支えあうことが大切だ。従来の活動が機能しない中では、何らかの形で新しいコミュニティをつくり上げることが大事だ。行政に全てを押し付けてもうまくいかない。

委員：地域包括ケアシステムを構築するとあるが、全て官製ではうまくいかない。元気な高齢者も含めて新しい担い手を育成していく必要がある。新しいコミュニティづくりの観点も方向性は示したほうが良いと思う。

委員：二宮町は消防団の役割は大きいですが、準公務員の枠に縛られ活動がうまくいかない問題もある。それでも二宮町の消防団はうまく言っている方だ。ただし、消防団員の多くは勤め人のため、緊急時に集まれるかどうか分からない。一方で消防の広域化が進められている。その中での消防団の役割や動き方についても今後詰めていかなければならないと思っている。

委員：社協は福祉関係のボランティアセンターとして、住民を支援するためのボランティア派遣のコーディネート機能を持つべきである。ボランティアの活動の場を広げていか

ないとボランティア自体も育たない。しかし、町の中にどのようなニーズがあるか調べて、それにあわせボランティアを育てるということになると時間とエネルギーが必要である。

ボランティアと社協の連携の仕方は自治体によって違う。今後は福祉が大変な時代になるが、社協としても様々なニーズをつないで活動の場を広げていきたいと思う。

また、ボランティア活動は行政ができない部分を支援することから、先駆性の高い取り組みが多くなる。それが一定程度定着すると大きな力になる。しかし、無償の場合は継続性が伴わないという問題もある。最近是有償ボランティアという制度も出てきているが、行政を補完する労働になりがちだ。地域包括ケアシステムを構築するのであれば、住民が自分たちで主体的に関わっていかないといけないと思う。行政と共通認識をもって取り組むことが必要だ。

委員：ボランティアはいろいろな形があって良いと思う。今後は、どうやって3万人の町民に動いてもらうかが重要な課題だ。

委員：ボランティアに関しては、行政主体ではなく、町民と一緒に参加することが大事だ。本来のボランティアは関係のある人を巻き込んで、育てていくという観点が重要だ。

委員：施策に入っている固有名詞の中には入れないほうが良いものが混じっているので精査してほしい。

事務局：表現について見直します。

委員：35 ページに生涯学習・スポーツ・歴史・文化の振興とあるが、歴史は振興するものではないと思う。歴史の振興について何か意図があるのか。

事務局：歴史の振興という表現は修正します。

会長：中期基本計画は今日をもって決定となるのか。

事務局：総合戦略と同じく、本日の意見を踏まえて素案を作成し、パブリックコメントにかけた上で、再度審議していただくことになります。

会長：素案が決まると大幅な修正はないと考えてよいか。

事務局：軽微な修正程度になると考えています。

委員：総合戦略を修正すると思うが、その部分は総合計画にも反映されるのか。

事務局：反映していきます。

(4) その他

【次回開催日程】

事務局：次回の開催は、2月12日、15日、16日、18日を候補とし、改めて調整して決定したいと思います。

会長：今日の会議は2時間の予定で進めてきたが、議論する時間が足りなかったようだ。必要であれば次回からは3時間とって時間をかけて議論する形にした方が良いと思うがどうか。

委員：夕方の予定があるため18時までとしてほしい。

委員：あらかじめ時間を決めてもらえれば3時間でもかまわない。

会長：時間は最長3時間の時間をとることで案内を出したい。